

公立小中学校の耐震性がない* 建物の耐震診断結果分布状況

* 耐震性が確認されていないものを含む。

1. 実施した耐震診断の種別

単位：棟

2次診断等※	1次診断	優先度調査	耐震診断未実施	合計
10,809	555	1,607	441	13,412
(80.6%)	(4.1%)	(12.0%)	(3.3%)	(100.0%)

※ 「2次診断等」は、「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」及び「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に基づいた2次診断・3次診断、「耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断及び耐震改修指針・同 解説」に基づいた耐震診断、「屋内運動場等の耐震性能診断基準」に基づいた耐震診断、これら以外の方法で耐震性の有無を判断したもの(Is値は算定せず)。

2. 耐震診断等の結果

○2次診断等

単位：棟

	$I_s < 0.3$	$0.3 \leq I_s < 0.5$	$0.5 \leq I_s < 0.6$	$0.6 \leq I_s$	計
2次診断等	1,911	4,965	2,300	1,620	10,796
	(17.7%)	(46.0%)	(21.3%)	(15.0%)	(100.0%)

※ 国土交通省告示第184号(平成18年)においてIs値については、Is値0.3未満は、大規模な地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高いとされ、Is値0.6以上は、地震に対して倒壊または崩壊する危険性が低いとされている。

※ Is値により耐震性能を評価しているものについて分類。

○1次診断

単位：棟

	$I_s < 0.3$	$0.3 \leq I_s < 0.5$	$0.5 \leq I_s < 0.8$	$0.8 \leq I_s$	計
1次診断	163	216	152	24	555
	(29.4%)	(38.9%)	(27.4%)	(4.3%)	(100.0%)

※ 「特定建築物の耐震診断及び耐震改修に関する指針に係る認定について」(平成17年7月 国土交通省住宅局長)においてIs値については、Is値0.8以上は、地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低いとされている。

○優先度調査

単位：棟

ランク①	ランク②	ランク③	ランク④	ランク⑤	計
226	174	397	445	365	1,607
(14.1%)	(10.8%)	(24.7%)	(27.7%)	(22.7%)	(100.0%)